

2018年3月14日（水）～16日（金）

1. 震災・復興とリスクマネジメント（）
2. 国際都市神戸と世界の文化（）
3. **提言：国際紛争・対立から平和・協力へ（○）**
4. グローバルサイエンスと拠点都市神戸（）
5. その他（ ）

### 東京での EU 研修

#### [概要]

SGH グローバル・アクション・プログラム（GAP）の一つである「EU 東京研修」を実施しました。この研修では大使館等の訪問や専門家とのディスカッションを通して、EU が抱える諸課題について理解を深めることを目的としています。

#### 【日程】

- 3月14日（水）外務省訪問／外務省 OB の方とのディスカッション  
3月15日（木）コソボ共和国大使館訪問／欧州連合代表部訪問  
3月16日（金）ルーマニア大使館訪問

リンク：

駐日欧州連合代表部による facebook ページへの掲載記事

<https://www.facebook.com/euinjapan/posts/1720482218013275>

#### 活動の様子



出発前、学校での事前学習では、参加者全員でプレゼンテーションのリハーサルをしながら、EU に関する理解を深めました。



外務省で実際に仕事をされている方から、外務省の仕事についてお話を伺いました。生徒の質問に対しても、後日メールで詳細な回答をいただくなど、大変丁寧に対応いただきました。  
○外務省って？外交官って？  
○外務省は言語採用！  
○「人間は磨けば輝くダイヤモンドの原石」



神戸大学東京オフィスの会議室にて、元外務省員のお二人から、国際情勢に関するお話を伺いました。  
○国際社会は「公共の善」で成り立っているのか？  
○世界の宗教（摩擦）とは？



神戸大学東京六甲クラブにて、元外務省員の方と夕食をともにしながらのディスカッションが続きました。

- 今後の世界において、日本の果たす役割とは
- 国際政治学とはどのような学問か



コソボ共和国大使館では「日本人観光客を呼び込むにはどうするか」というタイトルで本校生徒がプレゼンテーションをしました。



コソボ共和国大使館では、小人数のグループに分かれて大使の方や大使館職員の方と英語でコソボに関するディスカッションを行いました。



駐日欧州連合代表部では EU に関する講義を受けた後、本校生徒が「Should Japan accept refugees?」というタイトルでプレゼンテーションを行いました。



ルーマニア大使館において、ルーマニアに関する国の概要を学ぶとともに、ジェンダー問題に関するディスカッションを行いました。写真はルーマニアの民族衣装を身につけて撮影したものです。

#### 参加生徒の所感

《生徒の報告書より一部抜粋》

- 普段の勉強だけでは学べないことが学べる素敵な機会に巡り合う事が出来ました。理想の自分の姿に一つ駒を進められたような気がします。
- 今回の二泊三日の研修を通して、私は、外交というものは本当に奥が深いものだと感じた。そして、どんな国からも日本が学ぶべきものがあることも感じ、また同時に日本が世界に様々な影響を与えていることもわかった。将来、社会人になった際も国際的に世界を見て、人々と交流していきたいと思えた。
- 今回の EU 研修は大変貴重な体験だったと思います。(省略) その中でも一番刺激的だったのは田中さんらとの対談です。この話の中で、長年培われてきた外交官の視点から見えた世界を一部ながらお話を聞いたことがこの研修の一番の成果であると確信しています。
- 私たちは直接外交をすることはできないが、情報を取捨選択して正しい国際情勢を知り、世論として意見を反映させるべきだと考えた。
- 今回の議論を通して、「百年の遺産」をもう一度深く読み解き直し、縮小化していると同時に不安定している現代の国際社会における日本の理想の外交を考えてみたいと思った。
- 今回は EU 研修ということだったので、EU の話について主になると思っていました。異文化理解や異文化交流、様々な社会に関する情報などを得ることができ、成長することができた3日間であったと思います。
- 今回の研修では、整理しきれないくらい情報をいただくことができてよかった。普段はいけないようなところに行かせてもらい、この機会がなかったら一生知らなかったであろう話についても聞くことができてうれしかった。私は、もともと国際関係や海外に興味があるので自分のためになりすぎるくらい研修だった。